

算数

名前

丸つけ・直しまでやった場合は日付を記入。やれなかったものには×をつけよう。

基本メニュー (☆☆☆) 全員が必ずやるべきもの	日付		
① 第24回～第29回 復習用 スタンダード例題まで (①は必ず次の授業までに行う)	24回	25回	26回
	27回	28回	29回
② 第24回～第29回 復習用 基礎演習 (②はできるだけ次の授業までにする。間に合わない場合、夏期講習中が目安)	24回	25回	26回
	27回	28回	29回
③ 第24回～第29回 復習用 家庭学習Aプリント (③は夏期講習中が目安。次の授業までに終わらせる必要はない)	24回	25回	26回
	27回	28回	29回
④ ケイチくん7月号・8月号(計算一行問題集)指定のページ			

応用メニュー (☆☆) 余裕があればやるもの(Gクラス以上は必須)	日付		
① 第24回～第29回 復習用 ハイレベル例題 (授業でハイレベル例題を扱った場合、その問題は☆☆☆) (①は必ず次の授業までに行う)	24回	25回	26回
	27回	28回	29回
② 第24回～第29回 復習用 家庭学習Bプリント (授業でハイレベル例題をすべて扱った場合、Bプリントは☆☆☆) (②は夏期講習中が目安。次の授業までに終わらせる必要はない)	24回	25回	26回
	27回	28回	29回
③ Gラボ算数(入試問題に挑戦)QRコード記載の入試問題			

応用③は概ね夏期講習の単元に対応しています。できれば問題を見たら再生を中断し、紙やノートに解いてから視聴してください。

動画QRコード

第24回



第25回



第26回



第27回



第28回



第29回



裏面にも案内がございます。

担当からの連絡

夏期講習では「比と割合」「速さと比(1)」「図形の回転移動」「文章題(5)・回転体」「速さと比(2)」「規則性(1)」を扱います。

当日学習した内容は翌日までには復習することが望ましいです。

宿題の基本・応用メニューはクラスによって異なります。授業中に指示されたものに取り組んでください。

第24回「比と割合」は倍数算と比例・反比例を扱います。比を使った文章題は4年生で習った内容の復習です。倍数算は変わらない量に注目しましょう。反比例は積が一定になっています。てこの「モーメント計算」は反比例の性質を利用した問題です。

第25回「速さと比(1)」は、何が一定かを文章からしっかり読み取ることが重要になります。「速さが同じなら、遠くに行く方が多くの時間がかかる」「同じ距離を進むときは、速い方が先に到着する」等、ここでも「常識」が重要になります。例年、比を逆に書いて、惜しいと思っている生徒が多く出ますが、惜しくはありません。しっかりと「常識」を意識して解いていけるようになりましょう。

第26回「図形の回転移動」は、久しぶりに扱った問題も多く、忘れてしまった生徒もいるかもしれません。第26回のスタンダード例題は、4年生の9月に扱った内容の復習・応用になります。「頂点の通る場所」や「直角マーク」を意識して作図を行いましょう。作図のパターンの違いや $\times 3.14$ の計算など、難易度の高い単元です。1回の復習で理解し、解けるようにするのは難しいかもしれません。間違えた問題は、何度か解き直しをしてみると良いでしょう。この夏を通じて理解を深めていきましょう。

第27回「①文章題(5)・②回転体」では差集め算と回転体を扱います。差集め算も作図が重要です。全体の差は1あたりの差が集まって出来ているということをしかりと意識して、山の数が何を表しているかを考えながら解きましょう。また、子どもの数を聞かれているのか、色紙の枚数を聞かれているのかなど、答えになりうるものが複数出てくる単元です。問題文に線を引くなどして、「聞かれていることに答える」ことをいつも以上に意識しましょう。回転体のスタンダード例題は、春期講習に扱った立体単元の復習になります。特にスタンダード例題2は相似の考え方も使用します。

第28回「速さと比(2)」は第25回の続きとなり、旅人算を主に扱います。こちらも作図が重要になります。分かった情報をしっかりと作図に書き入れた上で「何が一定なのか」を考えながら解いていきましょう。その際、比にはしっかりと記号をつけて、具体的な時間等の本当の数字と区別して書くことを意識してください。

第29回「規則性(1)」は数列・周期を利用する問題と日暦算を扱います。「グループごとに / (スラッシュ)をつける」や、「求めるのが何グループ目の何番目かを調べる」という作業を怠っては間違いのもととなります。自分がどこまで調べたのか、逐一確認しながら問題に取り組みましょう。

日暦算は、完璧に理解をするには時間がかかる分野です。無理せず、まずは理解できるところまでをこなすようにしましょう。曜日の計算では、「〇〇日間」を用いる方法や「〇〇日後」を用いる方法など、複数の方法があります。どの方法を用いても構いません。自分のやりやすい方法で取り組みましょう。